

投稿

歯科医学教育の将来

学校法人福岡学園 理事長 田中健藏



「口腔機能の維持・向上」が「全身の健康保持・増進」や「QOLの向上」に密接に関わっているとする報告が多く見られるようになった。10年ほど前から口唇、口腔粘膜、舌、唾液腺、口蓋、顎、顎関節など、「口腔」を身体の一つの臓器と位置付け、一般医学教育を充実させた「口腔医学」という学問

の夢と勇氣と氣概を持った対応が不可欠ではないだろうか。

心の安んじかつ最良の医療を考へるとき、歯科医学・歯科医療は従来の固定観念、既成概念からの脱却を図るべき時期にある。社会のニーズに応える医療人として

などの口腔がんの罹患率も増加傾向にある。

診療に求められる患者さんは、健康な方ばかりではなく、むしろ歯科医療を行う上で何らかのリスクを有し

度な専門知識や技能を習得するとともに、全身疾患に関する基本的な一般医学知識を習得し、歯科医学と一般医学の緊密な連関についての理解がなければ、患者

さんに心から満足していただけの歯科医療の提供は困難になるだろう。

口腔医学の確立に挑戦

社会問題にもなったむし歯治療は減少し、糖尿病などの全身疾患との関わりが指摘される歯周病の頻度が急増している。生命に危険を及ぼす舌がんや歯肉がん

ている高齢者が少なくなっている。全身の健康状態を把握し、患者の有する疾患に応じた処置や処方を通じた判断して歯科医療を行うことが肝要であり、万一体調が急変した際にも適切に対処していく能力が求められる。口腔の疾患に関する高

くしくも世間では歯科医師過剰感が漂って、歯学部志願者は著しく減少しているが、誤嚥性肺炎の予防や術後の感染症・合併症リスク軽減のために口腔ケアの

疾病構造の変化、社会の超高齢化、有病高齢患者の増加などを踏まえ、「患者中

の夢と勇氣と氣概を持った対応が不可欠ではないだろうか。

難になるだろう。

福岡歯科大学では、平成25年度から学部・学科の名称を「歯学部・歯学科」から「口腔歯学部・口腔歯学科」に改称することにしており、「口腔医学」の理念を多くの方々知ってもらい、認識を深めていただくきっかけになればと切に願っている。本学は、これを機に新たな挑戦を始める気構えで、さらなる努力を重ねていく所存であり、学界・医療界関係者を始め、行政および社会の皆さまにご理解とご協力を頂ければ幸甚である。

必要性が着目されるなど、医療における歯科医師が果たすべき役割は大きくなっており、必然的に活動領域も広がりをみせ始めた。次代を担う若き歯科医師が、社会から求められ尊敬される医療人として、希望を持って自らの将来を見いだしていくことができるように、学問体系を確立・育成することが、歯科医学・歯科医療に携わるわれわれの責務だと考えている。